



D コマンド

この章では、D で始まる、Cisco NX-OS ファイバ チャンネル、仮想ファイバ チャンネル、および Fibre Channel over Ethernet (FCoE) のコマンドについて説明します。

description (仮想ファイバ チャネル インターフェイス)

仮想ファイバ チャネル インターフェイスの目的のサマリーを入力するには、**description** コマンドを使用します。説明を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

description *line*

no description

構文の説明	<i>line</i>	インターフェイスを説明するテキスト。説明は最大 80 文字で、スペースを含めることができます。
-------	-------------	---

コマンドデフォルト なし

コマンドモード 仮想ファイバ チャネル インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。
	5.0(2)N1(1)	bind 、 description 、および shutdown コマンドは interface vfc コマンドから分離されました。

例 次に、仮想ファイバ チャネル インターフェイス 3 の説明を入力する例を示します。

```
switch(config)# interface vfc 3
switch(config-if)# description vfc for attaching to Eth1/1 interface
switch(config-if)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	bind	仮想ファイバ チャネル インターフェイスにインターフェイスをバインドします。
	interface vfc	仮想ファイバ チャネル インターフェイスを設定します。
	show interface vfc	指定の VFC インターフェイス、属性、およびステータスを表示します。

device-alias abort

処理中の Distributed Device Alias Services (デバイスエイリアス) Cisco Fabric Service (CFS) 配信セッションを廃棄するには、**device-alias abort** コマンドを使用します。

device-alias abort

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
Release 4.0	このコマンドが追加されました。

例

次に、処理中のデバイス CFS 配信セッションを廃棄する例を示します。

```
switch(config)# device-alias abort
```

関連コマンド

コマンド	説明
device-alias database	デバイスエイリアスデータベースを設定およびアクティブにします。
device-alias distribute	デバイスエイリアスの CFS 配信をイネーブルにします。
show device-alias	デバイスエイリアス情報を表示します。

device-alias commit

ファブリック内で処理中の Distributed Device Alias Services (デバイスエイリアス) Cisco Fabric Service (CFS) 配信セッションに関連した保留中のコンフィギュレーションを適用するには、**device-alias commit** コマンドを使用します。

device-alias commit

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
Release 4.0	このコマンドが追加されました。

例

次に、アクティブな Dynamic Port VSAN Membership (DPVM) データベースに保留中の変更をコミットする例を示します。

```
switch(config)# device-alias commit
```

関連コマンド

コマンド	説明
device-alias database	デバイスエイリアスデータベースを設定およびアクティブにします。
device-alias distribute	デバイスエイリアスの CFS 配信をイネーブルにします。
show device-alias	デバイスエイリアス情報を表示します。

device-alias database

Distributed Device Alias Services (デバイスエイリアス) セッションを開始して、デバイスエイリアスデータベースを設定するには、**device-alias database** コマンドを使用します。デバイスエイリアスデータベースを非アクティブにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

device-alias database

no device-alias database

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

非アクティブ

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
Release 4.0	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

device-alias database コマンドは、このファブリックにあるすべてのスイッチ上のすべてのデータベースをロックするデバイスエイリアスセッションを開始します。デバイスエイリアスデータベースコンフィギュレーションモードを終了すると、デバイスエイリアスセッションが終了し、ロックが解除されます。

一時的なデバイスエイリアスデータベースだけで、すべての変更内容を実行できます。変更を永続的なものにするには、**device-alias commit** コマンドを使用します。

例

次に、デバイスエイリアスセッションをアクティブにし、デバイスエイリアスデータベースコンフィギュレーションモードにする例を示します。

```
switch(config)# device-alias database
switch(config-device-alias-db)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
device-alias commit	一時的なデバイスエイリアスデータベースへの変更をアクティブデバイスエイリアスデータベースにコミットします。
show device-alias	デバイスエイリアスデータベース情報を表示します。

device-alias distribute

Distributed Device Alias Services (デバイスエイリアス) の Cisco Fabric Service (CFS) 配信をイネーブルにするには、**device-alias distribute** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

device-alias distribute

no device-alias distribute

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

イネーブル

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
Release 4.0	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

保留中の変更を CFS 配信セッションに適用するには、**device-alias commit** コマンドを使用します。

例

次に、デバイスエイリアス情報の配信をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# device-alias distribute
```

関連コマンド

コマンド	説明
device-alias commit	アクティブ デバイス エイリアス データベースへの変更をコミットします。
device-alias database	デバイス エイリアス データベースを設定およびアクティブにします。
show device-alias	デバイス エイリアス情報を表示します。

device-alias import fcalias

デバイス エイリアス データベース情報を別の仮想 SAN (VSAN) からインポートするには、**device-alias import fcalias** コマンドを使用します。デフォルト設定または工場出荷時デフォルトに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

device-alias import fcalias vsan vsan-id

no device-alias import fcalias vsan vsan-id

構文の説明

vsan vsan-id VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
Release 4.0	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

次の制約事項を満たす場合、この機能を使用して、データを失うことなくレガシー デバイス名コンフィギュレーションをインポートできます。

- 各 FC エイリアスには、メンバが 1 つだけある。
- メンバタイプがデバイス名実装でサポートされている。

名前の競合が存在する場合、FC エイリアスはインポートされません。デバイス名データベースは、VSAN 従属 FC エイリアス データベースから完全に独立しています。

インポート操作が完了したら、変更されたグローバル FC エイリアス テーブルは、物理ファブリック内の他のすべてのスイッチに **device-alias distribute** コマンドを使用して配信できるため、新しい定義がすべての場所で使用できるようになります。

例

次に、デバイス エイリアス情報をインポートする例を示します。

```
switch(config)# device-alias import fcalias vsan 10
```

関連コマンド

コマンド	説明
device-alias database	デバイス エイリアス データベースを設定およびアクティブにします。
device-alias distribute	FC エイリアス データベースの変更をファブリックに配信します。
show device-alias	デバイス エイリアス データベース情報を表示します。

device-alias mode

デバイスエイリアス拡張モードを設定するには、**device-alias mode** コマンドを使用します。デバイスエイリアス拡張モードを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

device-alias mode enhanced

no device-alias mode enhanced

構文の説明

enhanced	拡張モードを指定します。
-----------------	--------------

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
Release 4.0	このコマンドが追加されました。

例

次に、デバイスエイリアス拡張モードを設定する例を示します。

```
switch(config)# device-alias mode enhanced
```

関連コマンド

コマンド	説明
device-alias database	デバイスエイリアスデータベース コンフィギュレーション モードにします。
show device-alias	デバイスエイリアスデータベース情報を表示します。

device-alias name

デバイスエイリアスデータベースにデバイス名を設定するには、**device-alias name** コマンドを使用します。デバイスエイリアスデータベースからデバイス名を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
device-alias name device-name pwwn pwwn-id
```

```
no device-alias name device-name
```

構文の説明

<i>device-name</i>	デバイス名。名前は、最大 64 文字まで指定できます。
pwwn <i>pwwn-id</i>	pWWN ID を指定します。形式は、 <i>hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh</i> で、 <i>h</i> は 16 進数です。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

デバイスエイリアスデータベース コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
Release 4.0	このコマンドが追加されました。

例

次に、デバイス名データベースにデバイス名エイリアス エントリを設定する例を示します。

```
switch(config)# device-alias database
switch(config-device-alias-db)# device-alias name Device1 pwwn 21:00:00:20:37:6f:db:bb
```

関連コマンド

コマンド	説明
device-alias database	デバイスエイリアスデータベース コンフィギュレーション モードにします。
show device-alias	デバイスエイリアスデータベース情報を表示します。

device-alias rename

デバイスエイリアスデータベースにデバイス名を設定するには、**device-alias rename** コマンドを使用します。デバイスエイリアスデータベースからデバイス名を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
device-alias rename device-name1 device-name2
```

```
no device-alias rename device-name
```

構文の説明

<i>device-name1</i>	現行のデバイス名を指定します。
<i>device-name2</i>	新しいデバイス名を指定します。最大で 64 文字の長さまで指定可能です。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

デバイスエイリアスデータベース コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
Release 4.0	このコマンドが追加されました。

例

次に、デバイス名データベースにデバイス名エイリアス エントリを設定する例を示します。

```
switch(config)# device-alias database
switch(config-device-alias-db)# device-alias rename Device1 Device2
```

関連コマンド

コマンド	説明
device-alias database	デバイスエイリアスデータベース コンフィギュレーション モードにします。
show device-alias	デバイスエイリアスデータベース情報を表示します。

disable-fka

Fibre Channel over Ethernet (FCoE) Initialization Protocol (FIP) キープアライブ (FKA) メッセージをディセーブルにするには、**disable-fka** コマンドを使用します。FKA メッセージをイネーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

disable-fka

no disable-fka

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

イネーブル

コマンドモード

仮想ファイバチャネルインターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N2(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用する前に、**feature fcoe-npv** コマンドを使用して、スイッチ上で Fibre Channel over Ethernet (FCoE) N ポート バーチャライザ (NPV) をイネーブルにする必要があります。スイッチが N ポート バーチャライザ (NPV) モードの場合、FKA メッセージをディセーブルにできません。



(注)

スイッチが NPV モードでないことを確認してください。スイッチの NPV 設定を削除するには、**switchport** コマンドを使用します。

このコマンドには、FCoE NPV ライセンスが必要です。

例

次に、FKA メッセージの検証をディセーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface vfc 3
switch(config-if)# disable-fka
switch(config-if)#
```

次に、FKA メッセージの検証をイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface vfc 3
switch(config-if)# no disable-fka
switch(config-if)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
fcoe fka-adv-period	FIP キープ アライブ (FKA) メッセージが ENode の MAC アドレスに送信される時間間隔を設定します。
feature fcoe-npv	スイッチの FCoE NPV をイネーブルにします。
show fcoe-npv issu-impact	FCoE NPV の設定情報を表示します。
switchport (仮想ファ イバチャネルインター フェイス)	仮想ファイバチャネル インターフェイスのスイッチ ポート パラメータを設定します。

discover custom-list

仮想 SAN（VSAN）の指定ドメイン ID の検出を選択的に開始するには、**discover custom-list** コマンドを使用します。

```
discover custom-list {add | delete} vsan vsan-id domain domain-id
```

構文の説明

add	カスタマイズされたリストにターゲットを追加します。
delete	カスタマイズされたリストからターゲットを削除します。
vsan <i>vsan-id</i>	指定した VSAN ID の SCSI ターゲットを検出します。有効な範囲は 1 ～ 4093 です。
domain <i>domain-id</i>	指定したドメイン ID の SCSI ターゲットを検出します。有効な範囲は 1 ～ 239 です。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、指定の VSAN およびドメイン ID の検出を選択的に開始する例を示します。

```
switch# discover custom-list add vsan 1 domain 2
```

次に、カスタマイズされたリストから指定の VSAN およびドメイン ID を削除する例を示します。

```
switch# discover custom-list delete vsan 1 domain 2
```

関連コマンド

コマンド	説明
show scsi-target	既存の SCSI ターゲット設定情報を表示します。
show vsan	設定された仮想 SAN（VSAN）に関する情報を表示します。

discover scsi-target

スイッチに接続されているローカルストレージまたはファブリック全体のリモートストレージの SCSI ターゲットを検出するには、**discover scsi-target** コマンドを使用します。

```
discover scsi-target {custom-list | local | remote | vsan vsan-id fcid fc-id} os {aix | all | hpux | linux | solaris | windows} [lun | target]
```

構文の説明

custom-list	カスタマイズされたリストから SCSI ターゲットを検出します。
local	ローカル SCSI ターゲットを検出します。
remote	リモート SCSI ターゲットを検出します。
vsan <i>vsan-id</i>	指定した仮想 SAN (VSAN) ID の SCSI ターゲットを検出します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。
fcid <i>fc-id</i>	指定した FCID の SCSI ターゲットを検出します。形式は、 <i>0xhhhhhhh</i> で、 <i>h</i> は 16 進数です。
os	指定したオペレーティングシステムを検出します。
aix	AIX オペレーティングシステムを検出します。
all	すべてのオペレーティングシステムを検出します。
hpux	HPUX オペレーティングシステムを検出します。
linux	Linux オペレーティングシステムを検出します。
solaris	Solaris オペレーティングシステムを検出します。
windows	Windows オペレーティングシステムを検出します。
lun	(任意) SCSI ターゲットおよび Logical Unit Number (LUN) を検出します。
target	(任意) SCSI ターゲットを検出します。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、すべてのオペレーティングシステムに割り当てられたローカル ターゲットを検出する例を示します。

```
switch# discover scsi-target local os all
discovery started
```

次に、Windows オペレーティングシステムに割り当てられたリモート ターゲットを検出する例を示します。

```
switch# discover scsi-target remote os windows
discovery started
```

次に、指定の VSAN (1) および FCID (0x9c03d6) の SCSI ターゲットを検出する例を示します。

```
switch# discover scsi-target vsan 1 fcid 0x9c03d6 os aix
discover scsi-target vsan 1 fcid 0x9c03d6
VSAN:    1 FCID: 0x9c03d6 PWWN: 00:00:00:00:00:00:00
        PRLI RSP: 0x01 SPARM: 0x0012...
```

次の例では、Linux オペレーティング システムに割り当てられたターゲットを、カスタマイズされたリストから検出することを開始します。

```
switch# discover scsi-target custom-list os linux
discovery started
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>show scsi-target</code>	既存の SCSI ターゲット設定情報を表示します。

■ discover scsi-target